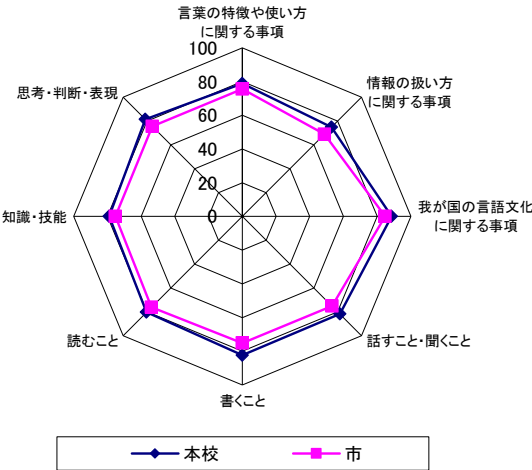


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.8	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	74.8	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.5	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	81.8	75.3	69.4
	書くこと	82.3	75.2	65.1
	読むこと	80.4	76.2	68.8
観点別	知識・技能	79.0	75.3	66.7
	思考・判断・表現	81.5	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

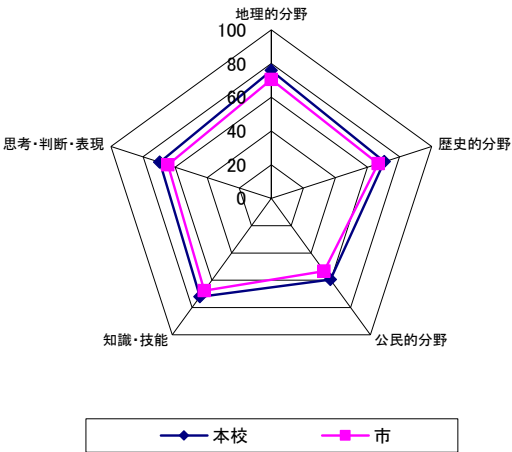
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市平均を3.2ポイント上回っている。 ○「小学校で学習した漢字を正しく書いている」の正答率は、全ての設問で市平均を上回っている。 ●「助動詞について理解している」の正答率は、市平均を2.0ポイント下回っている。 ●「敬語について理解している」の正答率は、市平均を2.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては今後も小テストを継続し、新出・既出漢字を確認する。必要に応じて、漢字練習を授業内で実施する。 ・助動詞に関しては、苦手意識を少なくできるよう小テストを定期的に実施し、問題を繰り返し解かせる。 ・敬語に関しては、普段から正しく使用するよう指導していく。また、意識付けのために小テストを実施する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市平均を5.8ポイント上回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の正答率は、市平均を12.0ポイント上回っている。 ●「情報と情報の関係について理解し、論理の展開の仕方を捉えている」の正答率は、市平均を0.4ポイント下回っている。	・情報を正しく読み取り、整理できるように、ワークシートを用いるなどして、理解度を確認する。また、論理の展開の仕方を捉えることができるようにワークシートを工夫し、視覚的にアプローチする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市平均を3.8ポイント上回っている。 ○「現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる」の正答率は、市平均を3.8ポイント上回っている。	・今後も歴史的仮名遣いの知識の定着を図るため、引き続き音読や暗唱テストに力を入れる。 ・様々な古典作品を紹介するなどして関心をもたせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市平均を6.5ポイント上回っている。 ○全ての設問で正答率が市平均を上回っている。特に「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している」の正答率は、市平均を12.1ポイント上回っている。	・今後も話し合いの時間を積極的に設け、相手に伝わりやすい内容構成や話し方になっているか考えて話すよう指導する。 ・自分の考えが分かりやすく伝わる表現を工夫させるために、話し合いの前に自分の意見をまとめる時間を設定する。
書くこと	平均正答率は市平均を7.1ポイント上回っている。 ○全ての設問で正答率が市平均を上回っている。特に「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」の正答率は、市平均を5.6ポイント上回っている。	・自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書くことはできている。今後も小作文を書かせる活動を取り入れ、自分の考えを書く習慣を身に付けさせるとともに、書く力を伸ばす指導をしていきたい。
読むこと	平均正答率は市平均を4.2ポイント上回っている。 ○「文学的な文章の内容の読み取る」問題では、全ての設問で市平均を上回っている。特に「文章を読んで考えを広げたり深めたりしている」の正答率は、市平均を4.8ポイント上回っている。	・文学的な文章の内容の読み取りでは、登場人物の言動の意味を考えて読むことができるように継続して指導する。また、今後も読書に慣れ親しむことができるよう読書活動を励行する。 ・説明的文章の読み取りでは、筆者の主張と根拠を意識して読み取れるよう指導する。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	75.8	70.5	62.1
	歴史的分野	70.4	66.6	57.8
	公民的分野	59.6	53.3	45.2
観点別	知識・技能	72.1	67.6	59.2
	思考・判断・表現	69.5	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

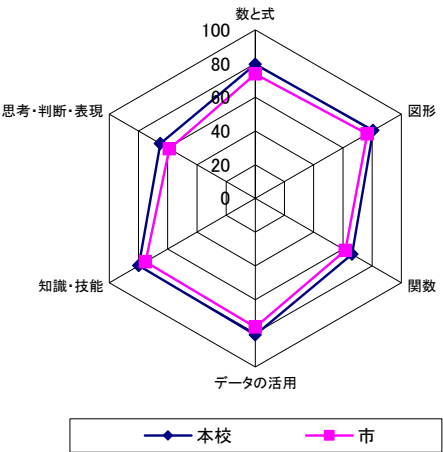
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は市平均を5.3ポイント上回っている。 ○多くの問題で正答率が70%を超えており、市平均も上回っている。 ○「日本の地形の特色について理解している」の正答率は、市平均を14.3ポイント上回っている。 ●「日本の資源・エネルギーにかかわる課題について、資料をもとに考察し表現している」の正答率は、正答率が41.5%と低く、市平均を1.7ポイント下回っている。	・農業と気候、工業と地形・鉱産資源の関連などは世界地理と日本地理に共通している内容なので、定着を図るため授業で繰り返し確認する。 ・記述の問題に課題が見られる。資料の読み取りや考察をする際に、ペアやグループで話し合うなど自分の考えを表現する時間を多く取り入れる。また、資料を読み取る活動と読み取ったことから考察する活動を分けるなど段階的に取り組ませる。
歴史的分野	平均正答率は市平均を3.8ポイント上回っている。 ○「江戸時代の大阪の蔵屋敷が集中していた地域について、資料をもとに判断している」の正答率は、市平均を12.5ポイント上回っている。 ●「承久の乱について理解している」の正答率は、市平均を4.2ポイント下回っている。	・中世の日本についての理解に課題が見られる。政権が朝廷から幕府へと移っていく時代の変化を理解させるために、資料を活用して視覚的に捉えさせたり、歴史的事象と人物について関連付けさせたりする。
公民的分野	平均正答率は市平均を6.3ポイント上回っている。 ○「公共の福祉について理解している」の正答率は、市平均を10.1ポイント上回っている。 ●「社会権の種類を理解している」の正答率は、42.9%と低く、市平均を0.6ポイント下回っている。	・基本的人権に含まれる様々な権利について、具体例を挙げながら説明を聞いたり、生徒自身の生活の中で人権に関わる場面を考えたりして、自分事として捉えられるようにする。その上で図式化してまとめさせるなどして、それぞれの権利について整理して理解させる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	79.5	73.8	71.4
	図形	80.7	76.7	67.9
	関数	66.2	61.6	52.2
	データの活用	80.9	76.4	65.4
観点別	知識・技能	79.8	75.2	69.9
	思考・判断・表現	65.0	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

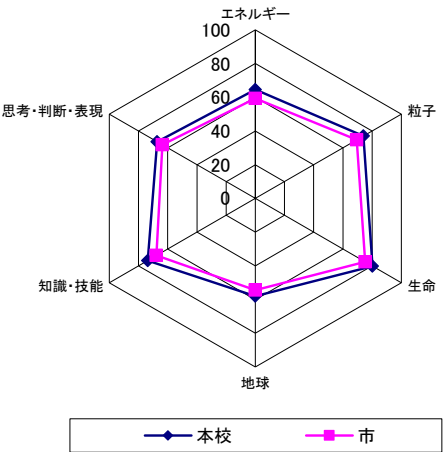
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市平均を5.7ポイント上回っている。 ○「連立方程式をつかって解を求め、その解が文章問題の内容に適しているかどうかを判断し、その理由を説明することができる」の正答率は、市平均を10.3ポイント上回っている。 ●「乗法公式を使って式を簡単にすることができる」「与えられた文章問題に対して適切な連立方程式を立式することができる」の正答率は、市平均をそれぞれ7.5ポイント、6.0ポイント上回っているが、共に50.1%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・連立方程式の解が問題に適しているかどうかを判断する力が身に付いていると考えられるため、現在の指導を継続する。 ・計算力や読解力を高めるために反復学習を徹底する。
図形	平均正答率は市平均を4.0ポイント上回っている。 ○「角の二等分線を作図することができる」の正答率は、市平均を11.5ポイント上回っている。 ●「おうぎ形の面積を求めることができる」の正答率は、市平均を0.7ポイント下回っている。	・基本的な作図についての力が身に付いていると考えられるため、現在の指導を継続する。 ・様々な平面図形や立体の面積や体積、表面積などを求める公式の理解力を高めるために、暗記するだけでなく、公式の意味を丁寧に指導する。
関数	平均正答率は市平均を4.6ポイント上回っている。 ○「座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求めることができる」の正答率は、市平均を11.6ポイント上回っている。 ●「グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求めることができる」の正答率は27.4%と低く、市平均を0.1ポイント下回っている。	・グラフの式から2点A、Bの座標を求め、三角形の面積を求める力が身に付いていると考えられるため、現在の指導を継続する。 ・関数と図形の複合問題について課題が見られる。グラフ上の点のx座標、y座標が示す意味を理解できるよう、丁寧に指導する。
データの活用	平均正答率は市平均を4.5ポイント上回っている。 ○「ヒストグラムの階級の度数について理解している」の正答率は94.9%と高く、市平均を6.3ポイント上回っている。 ●「ヒストグラムの特徴を読み取り、説明すべきことがらについて数学的に説明することができる」の正答率は、市平均を1.8ポイントを上回っているが、59.1%と低い。	・すべての問題において市の正答率を上回っており、特にヒストグラムの度数の意味について、しっかりと理解できていると考えられる。 ・ヒストグラムの特徴が示す意味を理解させるとともに、その意味を説明させる機会を増やす。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.6	59.3	62.1
	粒子	74.1	69.5	66.8
	生命	80.3	75.2	70.9
	地球	58.0	54.4	52.0
観点別	知識・技能	73.7	67.7	67.2
	思考・判断・表現	67.2	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

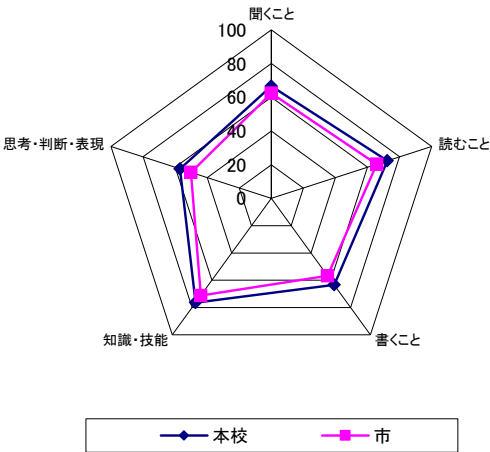
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市平均を5.3ポイント上回っている。 ○「テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求めることができる」の正答率は、市平均を8.4ポイント上回っている。 ●「磁力線について理解している」の正答率は、市平均を3.7ポイント上回っているが、38.6%と低かった。	・基礎基本の知識は身に付いていると考えられるので、引き続き理科ワークやeライブラリなどを利用して、基礎基本の定着を図る。 ・語句を定着させるために、語句を自分の言葉で説明するようなペアワークやグループワーク・小テストを行う。
粒子	平均正答率は市平均を4.6ポイント上回っている。○「化学反応式の記述の仕方を身に付けている」の正答率は、市平均を11.9ポイント上回っている。 ○「電離について理解している」の正答率は、市平均を11.0ポイント上回っている。	・基礎基本の知識は身に付いていると考えられるので、引き続き理科ワークやeライブラリなどを利用して、基礎基本の定着を図る。 ・思考力を養うために、実験の際に根拠をもって仮説や実験の方法を考えさせるなどの活動を行う。
生命	平均正答率は市平均を5.1ポイント上回っている。 ○「減数分裂について理解している」の正答率は、市平均を16.2ポイント上回っている。 ●「肺炎になると息苦しくなる理由を分析し、記述できる」の正答率は、市平均を2.0ポイント下回っている。	・基礎基本の知識は身に付いていると考えられるので、引き続き理科ワークやeライブラリなどを利用して、基礎基本の定着を図っていきたい。 ・既習事項と日常生活との関連が薄いと考える。授業で身近なことを例に挙げて説明したり、自分たちで調べさせたりするなどの活動を通して、日常生活との関連を図る。
地球	平均正答率は市平均を3.6ポイント上回っている。 ○「スケッチから、火成岩を推測することができる」の正答率は、市平均を7.3ポイント上回っている。 ●「ポンプを動かして水がくみ上げられた理由を記述できる」の正答率は、市平均を1.2ポイント上回っているが、19.1%と低い。	・基礎基本の知識は身に付いていると考えられるので、引き続き理科ワークやeライブラリなどを利用して、基礎基本の定着を図る。 ・他の分野に比べると正答率が低いので、地学の問題に触れる機会を多く設定する。 ・知識をもとに推測するような思考力を身に付けさせるため、応用問題にも積極的に取り組ませる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.6	62.4	59.8
	読むこと	72.4	65.7	58.5
	書くこと	63.4	56.8	43.5
観点別	知識・技能	76.4	71.2	65.3
	思考・判断・表現	56.9	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均を4.2ポイント上回っている。 ○「対話を聞き、その概要を捉えて、適切に応答している(所有物を使用していいかとずねられて)」の正答率は、市平均を8.9ポイント上回っている。 ●「英文を聞き、その内容を理解して、英文の内容に合う問題を選んで(天候の説明)」の正答率は、27.2%と低く、市平均を1.0ポイント下回っている。	・説明を理解する問題で課題が見られるため、まとまりのある英文を聞く機会を増やす。 ・「聞く力」の向上のため、内容の解説やつながりのある発音、代名詞が指していること等について重点的に指導する。
読むこと	平均正答率は市の平均を6.7ポイント上回っている。 ○「メールを読み、その内容を理解している」の正答率は、市平均を11.0ポイント上回っている。 ●「メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている」の正答率は、市平均を6.2ポイント上回っているが、31.3%と低い。	・内容理解の問題では、単語や文構造の理解などの基礎基本を身に付けていると考える。 ・概要を捉える問題において課題が見られる。限られた時間の中で話を整理し、大意をつかむ練習をする必要がある。様々な長文に触れさせ、それを要約する機会を設定する。
書くこと	平均正答率は市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○「学校の制服について、自分の考えに対する理由や説明を、相手に伝えるように書いている」の正答率は、市平均を11.0ポイント上回っている。 ●「対話に流れにあった英文を、相手に伝えるように書いている(見た場所をたずねる)」の市平均を3.8ポイント上回っているが、31.8%と低い。	・まとまりのある文を書く力は身に付いていると考えられる。今後も授業で5～6文のエッセイを生徒に書かせ、教員が添削を行い生徒に返却し、もう一度書かせるなど「書く力」の向上に努める。 ・「話す力」と「書く力」が結びついていないと思われる。今後は書く作業に加え、5～6人の小グループ内での意見交換やディベートを行い、「書くこと」を「話すこと」に繋げる。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行っている。	・「授業の始まりには席についている」の設問に肯定的に回答した割合は、市平均と比較して1年生2.6ポイント、2年生1.0ポイント、3年生2.8ポイントとそれぞれ上回っている。
・家庭学習の習慣化	・期限を守り、課題を提出する指導を行っている。	・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の設問に肯定的に回答した割合は、市平均と比較して1年生1.1ポイント、2年生0.6ポイント、3年生4.3ポイントとそれぞれ上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査ともに、各教科の領域等区分における正答率が国・県・市平均を上回っている。設問ごとには下回っている状況が見られる。さらに学力を向上させるために毎時の授業で宇都宮モデルの授業を展開して基礎・基本を定着させること、その上で発展問題に取り組む時間を設定する。

【家庭での学習について】

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の設問に肯定的に回答した割合は、1年生35.0%、2年生25.4%、3年生34.9%であり、市平均と比較して1年生5.0ポイント、2年生6.6ポイント、3年生2.7ポイントとそれぞれ下回っている。家庭学習を通して基礎・基本を身に付けることができるよう各教科で適切な量や内容の課題を与え、次時に定着度を確認して、認め励ます指導をすることが必要である。